

第1号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策計画書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 〒210-0866  
 住 所 川崎市川崎区水江町6番2号  
 氏 名 出光ルブテクノ株式会社 印  
 代表取締役社長 原田 知幸  
 (法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第9条第1項(同条第4項において読み替えて準用する場合を含む。)の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	出光ルブテクノ株式会社		
主たる事務所又は 事業所の所在地	川崎市川崎区水江町6番2号		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者(任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	17	石油製品・石炭製品製造業
主たる事業 の内容	潤滑油の貯蔵、製造、出荷		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量		1911 k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO <sub>2</sub>
連絡先	担当部署	担当部署名	製造部
		所在地	川崎市川崎区水江町6番2号
	電話番号		044-288-2264
	FAX番号		044-287-6488
	メールアドレス		
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計 画 期 間	平成22年度 ~ 平成24年度
温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針	別添 指針様式第1号および第3号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制	別添 指針様式第1号および第3号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第1号および第3号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項	工場で消費するエネルギーについて効率化およびロスカットを中心としてCO2排出量低減を図る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギー管理システムの導入</li> <li>・エア漏れ低減によるコンプレッサー効率運用</li> <li>・電気加熱の効率運用 ・蒸気主管の保温改修によるロス低減 など</li> </ul> 詳細は、指針様式第1号(第4、5面)のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項	なし
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・廃棄物の分別、再利用化を促進し平成24年度までにゼロエミ率1%以下、リサイクル率90%以上を目指す。</li> <li>・社内で使用する用紙の削減を推進する。</li> <li>・京浜ルプセンターの構内緑化を推進する。</li> <li>・植林活動への支援・参加を実施する。</li> </ul> 詳細は、指針様式第1号(第6面)のとおり
備 考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。  
 2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。  
 3 計画書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。  
 4 ※印の欄は記入しないでください。  
 5 氏名(法人にあっては、その代表者)を記載し、押印することに代えて、本人(法人にあっては、その代表者)が署名することができます。

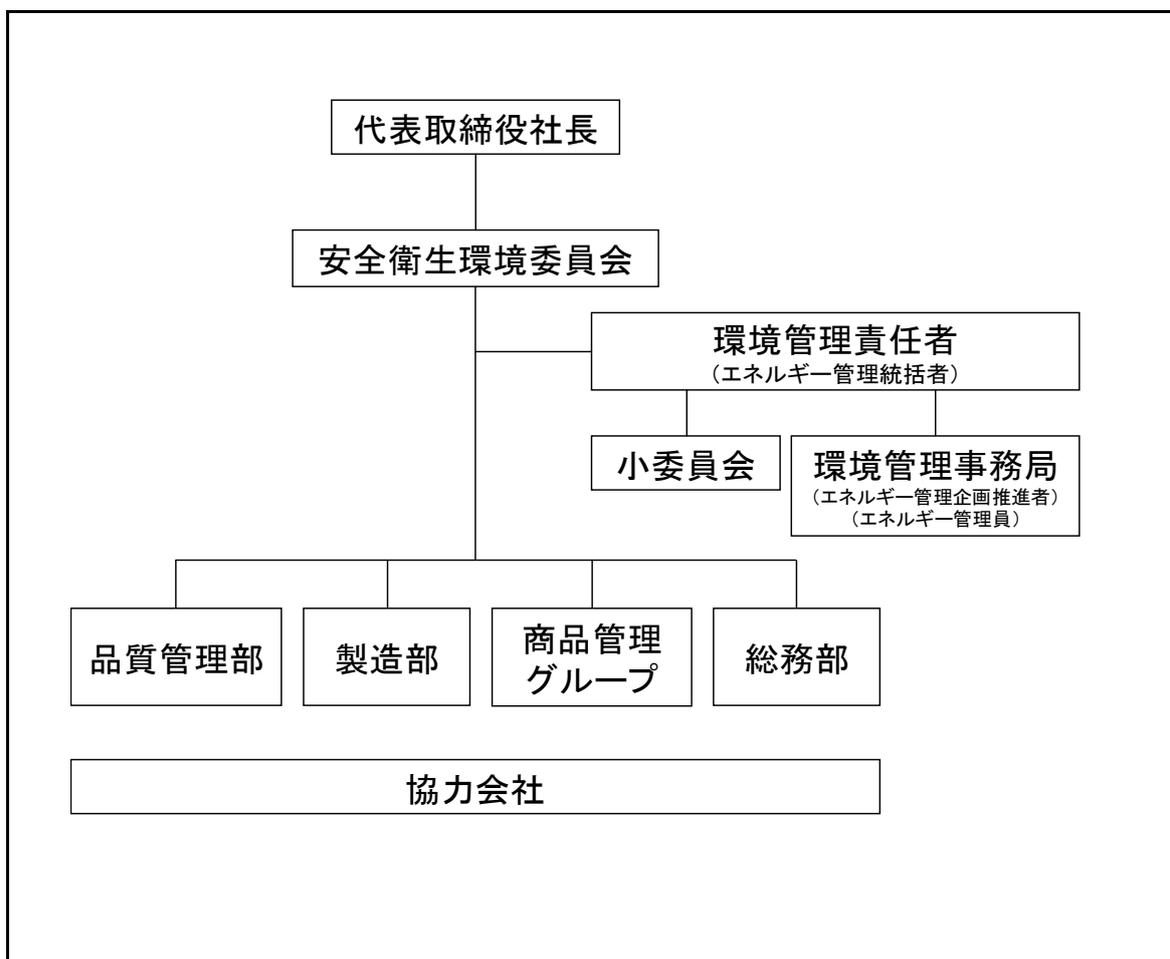
## 事業活動地球温暖化対策計画

### 1 温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針

当社は潤滑油原料の基油及び添加剤を受入れ潤滑油製造を行っており、これに係わる設備の設計・建設、生産、購買、入出荷、分析試験サービス等の全ての業務に関し「環境方針」を以下の通り定めます。

1. 『環境にやさしい事業所』を目指し、全ての業務に係わる環境管理システムの継続的改善に努めます。
2. 環境関連法規の順守はもとより、自主的取り組みにより環境汚染の予防及び環境保全に努めます。
3. 投入エネルギー効率を最適とするように、省エネルギーに努めます。
4. 廃棄物の削減及び資源の有効利用に努め、ゼロエミッションの事業所を目指します。
5. 環境管理活動推進のため、環境目的・目標を設定して、その達成に努めます。更に、環境管理システムとともにこれを定期的に見直して、環境パフォーマンスの継続的な向上を図ります。

### 2 温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制



3 温室効果ガスの排出の量の削減目標等 (第1号、第2号、第4号該当者等)

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量

ア 基準排出量と目標排出量

基準年度	平成21年度	目標年度	平成24年度
基準排出量	(実) 4,349 t- (調) 4,115 CO <sub>2</sub>	目標排出量	(実) 4,664 t- (調) CO <sub>2</sub>
削減率	(実) -7.2 % (調)	削減量	(実) -315 t- (調) CO <sub>2</sub>

イ 基準排出量原単位等と目標排出量原単位等

原単位の活動量	製造数量	単 位	kg-CO <sub>2</sub> /kL
基準年度の値	29.53	目標年度の値	26.20
削減率	11.3 %		
延床面積、生産数量以外の原単位を使用した場合の理由			

ウ 目標設定に関する考え方

温室効果ガスの排出量原単位の削減を図るため、エネルギー原単位の値を年平均1%削減することを前提に目標を設定した。ただし製造数量が増加すると原単位は減少する傾向が有るため、あらかじめ年度毎の計画製造数量における標準的なエネルギー使用量を元に削減率を反映させた。

(1年目は標準使用量の1%減、2年目は2%減、3年目は3%減を目標とする)

基準年度の平成21年度は経済情勢が芳しくなく製造数量が大幅に落ち込んでいた。平成22年度からの3カ年の製造計画では大幅な製造数量増加を見込んでおり、製造に要するエネルギーの増加は免れない状況である。

使用エネルギーの状況を見直しより効率的でムダのない管理を徹底することにより原単位の低減を図って行きたい。

(2) 温室効果ガスの排出の量の削減目標 (全社目標)

--

5 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の内容

<p>事業所等に係る温室効果ガスの排出の量の削減を達成するための具体的措置</p> <p>(第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○推進体制の整備 従来より設置されている安全衛生環境委員会を中心として、エネルギー管理統括者、エネルギー管理企画推進者を新たに設置して省エネルギー活動を積極的に行う組織作りを行う。</li> <li>○主要設備の設備管理 ボイラー、エアコンプレッサー、空調機などエネルギー消費の大きな機器を中心に管理標準を整備しそれに基づく点検・整備を実施していく。</li> <li>○エネルギー使用状況のデータ収集強化 従来の計測のしくみに加えて、蒸気用流量計および電力系統毎の計測装置を設置し、リアルタイムに使用量を記録するシステムを導入することにより、各機器の省エネ対策を検討するためのデータを得る。</li> <li>○エアーコンプレッサーの効率化 従来より継続的に行っているエア漏れ低減を進めコンプレッサーの効率運用を図っていく。</li> <li>○電気加熱設備の効率化 時間制御や選択制御の導入などにより一層の省エネを進める。</li> <li>○スチームの効率化 配管部の放熱ロス改善やスチームトラップの管理を強化し、スチームのムダを省いていく。</li> <li>○その他 変圧器の適正運用、ポンプの運転管理、照明・空調機等新設機器の導入時に効率の良いものの採用を検討していく、などの方策を実施していく。</li> </ul>
<p>自動車に係る温室効果ガスの排出の量の削減を達成するための具体的措置</p> <p>(第 3 号該当者等)</p>	

(2) 再生可能エネルギー源等の利用計画及び前年度末における利用実績

ア 再生可能エネルギー源等の利用に係る考え方

出光興産㈱が環境事業の一環としてグリーン電力供給事業（出光グリーンパワー）を開始した。これに伴い当事業所でも買電先を出光グリーンパワーに変更し風力・水力・バイオマスなどの自然エネルギーを活用した電力の使用を開始した。

イ 再生可能エネルギー源等の利用計画及び利用実績

設備等の種類	概要(規模、導入場所、性能等)	導入年度	備考

ウ 再生可能エネルギー源等の価値の保有計画及び保有実績

種類	概要(規模、場所等)	保有年度	備考

(3) 基準年度の末日までに完了した主な対策内容

○エアーコンプレッサーの電力量について、エアーの漏れ低減や運転時間の見直しにより対前年比15%減の省エネルギーを達成した。

○配管保温用電気加熱設備の電力量について、運転時間調整や不要な箇所の停止を行うことにより対策前に比べ30%減の省エネルギーを達成した。

○事務所用空調機に蒸発予備器を設置することによりCOPを向上させた。

○ボイラーを連続運転させていたが、使用状況を分析し可能なときは停止させることにより年間の灯油使用量を27kL削減した。

6 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項

なし

7 その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項

- 廃棄物の分別、再利用化を促進し平成24年度までにゼロエミ率1%以下、リサイクル率90%以上を目指す。
- 社内で使用する用紙の削減を推進する。
- 京浜ルブセンターの構内緑化を推進する。
- 植林活動への支援・参加を実施する。

8 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績

(1) 事業者単位

ア 第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等

(実)	4,349	t-CO <sub>2</sub>
(調)	4,115	

イ 第 3 号該当者等

		t-CO <sub>2</sub>
--	--	-------------------

(2) 事業所等単位 (第 1 号、第 2 号該当者等)

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500k<sub>l</sub> 以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る事 業の名称	温室効果ガス の排出の量
出光興産(株)京浜ルポセンター	川崎区水江町6-2	1721	潤滑油製造業	4349 t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500k<sub>l</sub> 以上 1,500k<sub>l</sub> 未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る事 業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO <sub>2</sub>

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500k<sub>l</sub> 未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400~500k <sub>l</sub> 未満	0
300~400k <sub>l</sub> 未満	0
200~300k <sub>l</sub> 未満	0
100~200k <sub>l</sub> 未満	0
100k <sub>l</sub> 未満	0

(3) 事業所等単位 (第 4 号該当者等)

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量 (二酸化炭素換算) が 3,000 t 以上 (二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。) の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る事 業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO <sub>2</sub>

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量 (二酸化炭素換算) が 3,000 t 未満 (二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。) の事業所の数

事業所数	
------	--